



水道工事について



上下水道局では、安心して利用できる安全な水を安定的に供給できるよう、水道管の更新及び耐震化を進めるとともに、道路整備事業等に併せて新たな水道管を布設しています。

古い水道管（老朽管とは?）



古い水道管とは、布設後40年以上経過し、漏水や赤水の発生が懸念される水道管をいいます。

新たに布設する水道管は、耐食性、耐久性、耐震性にも優れているダクタイル鋳鉄管という管種を使用しています。管内部に錆（さび）こぶの発生を防ぐ内面塗装（ライニング）が施されています。

水道管布設替工事の一般的な手順



①試掘 工事の前に他の占用物の調査をします。 ②アスファルト舗装切断 アスファルトカッターを使用します。 ③工事のための掘削 掘削機械で穴を掘ります。 ④既設管撤去 古い水道管を撤去します。



⑤新しい水道管布設 耐震性にも優れた新しい管を布設します。 ⑥埋戻し・締め 道路に凹凸ができないように埋戻します。 ⑦舗装復旧(完了) 道路を元通りにして完成です。

上下水道局では、毎年計画的に水道管の更新・耐震化・新設を進めています。



工事期間中は、機械の騒音や交通規制等、市民のみなさまには大変ご不便をおかけしますが、水の安定供給のためご理解とご協力をよろしくお願い致します。

【お問い合わせ】水道工務課 TEL：941-7807



災害に備えて…耐震化への取り組み

「那覇市水道施設更新(耐震化)基本計画」を改訂しました

国が新たな「重要給水施設管路の耐震化計画策定の手引き」を示したことや、本市の地域防災計画において想定される地震の大きさなどを見直したことから改訂いたしました。

主な改訂箇所としては、既存の非耐震管の耐震適合性の判定や管路耐震化の優先度の見直しなどを行っています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

水道施設の耐震化率

主要な管(基幹管路)※1約120km、その他の管(配水支管)※2が約712km、全体で約832kmあります。現在の主要な管の耐震化率は32.1%、耐震適合率※3は61.2%、配水池の耐震化率は91.3%、ポンプ場の耐震化率は100%となっており、耐震化の状況は全国平均に比べ高く、引き続き水道施設の耐震化を進めていきます。また、昨年度から豊見城配水池建設事業もスタートし、配水池の耐震化率100%を目指します。

※1 口径300mm以上 ※2 口径300mm未満 ※3 耐震適合性のある管が布設された管路の割合です。耐震適合性のある管とは、耐震管や良い地盤に布設された既存の耐震性のない水道管のことです。

水道管の耐震化について

上下水道局では地震などの災害に備え水道施設の耐震化を進めています。水道管の更新時には「伸縮性」・「屈曲性」・「離脱防止機能」を備えた耐震管へと布設替を行っています。



写真提供：日本ダクタイル鉄管協会



抜けずに伸びて曲がる!! だから、地震でも安心。



耐震管継手構造

地震等の時、管の突起部がロックリングに当りそれ以上抜けなくなるよ



耐震管は、地震に強いだけでなく、津波や液状化などの二次災害、台風や豪雨などの自然災害でも優れた継手性能により被害を免れた事例が多数あり、今後も引き続き水道施設の耐震化を進め、災害に強い安全・安心な水道施設整備に取り組んでいきます。

【お問い合わせ】水道工務課 TEL：941-7807